

二〇二六年度宮城学院女子大学編入学試験 学芸学部日本文学科 小論文

□一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は著作権の都合により公表できません

この部分は著作権の都合により公表できません

(福嶋亮大『感染症としての文学と哲学』による)

問一 傍線部(1)・(2)のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 空欄 A

B

C

に入るもっとも適当なものをそれぞれ次の中から選び、

番号で答えなさい。

- 1 ただ
- 2 むしろ
- 3 なぜなら
- 4 つまり
- 5 例えば

問三 右の文章を要約しなさい(二〇〇字程度、冒頭字下げ不要)。

□二 次の中から二題を選び、それぞれについてあなたがこれまで学んできたことを簡潔に述べなさい（一題につき三〇〇字以内、冒頭字下げ不要）。なお、解答用紙の所定の欄に自分が選択した問題の番号を記入すること。

- 1 説話文学について
- 2 物語文学について
- 3 近代の文学について
- 4 戦後の日本映画について
- 5 日本語の音声について
- 6 日本の文字・表記について
- 7 日本語の方言の共通語化について
- 8 日本語教育における文法指導について

【解答例】

一

問一 (1)救済 (2)挑発

問二 A―2 B―4 C―5

問三

(記述例) 村上春樹の作品には、物語を「自己療養」の糸口ととらえる描写があり、物語を通して問題を別の想像力の回路へと導くことに、その「療養」の本質がある。物語を入り口として傷ついた状態からの回復を図る発想は、「ナラティブ・メディスン」の取り組みなど多くの領域に広がっている。一方、セラピーとしての物語という考え方は、読者の感情を逆なでする表現を忌避させてしまう問題点も持ち、ときに批判される。いずれにしても、「語ること」が何らかの精神上の変容をもたらすことは確かであり、そのために人間は物語を生み出し続けてきた。「療養としての物語」の概念には文化人類学的なルーツがあり、「おはなし」はさまざまな文化に認められてきた療法である。(307字)

二

(省略)

【出題意図】

一

問一 基本的な漢字力を確認する。

問二 基本的な接続詞の知識と読解力の確認。文章の論理展開を的確に把握する能力を確認する。

問三 文章の要約。文章全体の構造をとらえ要点を適切に読み取り、正しい文章表現で記述する能力を確認する。

二

日本文学・日本語学・日本文化史・日本語教育学の各学問領域について、基礎的な知識を修得しているかを確認する。また、専門的な知識について、筋道が立った構成と正しい文章表現で記述する能力を確認する。